平成27年度 公共建築物等への

県産材利用事例集

三重県

表紙写真　上段「紀勢自動車道地域振興施設（始神テラス）」
　　下段「明和町立みょうじょうこども園」

目　次

平成 26 年度完成施設

■ 宮川メディカルセンター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～3
■ グループホームきれい 御糸の杜　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
■ 地域密着型特別養護老人ホーム たきの里　・・・・・・・・・・・・・・・5～6
■ 医療法人 イワサ小児科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7～8
■ 明和町立みょうじょうこども園　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9～10
■ 藤認定こども園　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11～12
■ 菰野町立鵜川原幼稚園・保育園　・・・・・・・・・・・・・・・・・・13～14
■ のべの幼稚園　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15～16
■ 第二はなこま保育園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17～18
■ 南伊勢町立さくら保育園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19～20
■ 熊野市立入鹿保育所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21～22
■ 伊賀市立阿山小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23～24
■ 尾鷲市立宮之上小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25～26
■ 三重県立杉の子特別支援学校石薬師分校 作業実習棟　・・・・・・・・27～28
■ 神辺地区コミュニティセンター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・29～30
■ 九鬼コミュニティーセンター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
■ 障害者支援多機能型事業所 紀北作業所　・・・・・・・・・・・・・・・32
■ 紀勢自動車道地域振興施設「始神テラス」・・・・・・・・・・・・・33～34
■ 湯ノ口温泉施設　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35～36
■ 上野忍町武家屋敷　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37～38
■ 深田スポーツ交流センター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
■ 五郷防災センター　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
■ 斎宮池地区地域用水環境整備事業トイレ　・・・・・・・・・・・・・41～42

みえ森と緑の県民税を活用した備品整備（平成 26 年度）

■ 紀勢自動車道地域振興施設「始神テラス」使用備品　・・・・・・・・・43
■ 農水産物直売所「鳥羽マルシェ」使用備品　・・・・・・・・・・・・・44

宮川メディカルセンター

施設名	宮川メディカルセンター (大台町介護老人保健施設みやがわ) (大台町報徳診療所)
所在地	多気郡大台町江馬114
発注者	大台町
工期	着手　平成26年3月10日 完成　平成27年1月30日
規模	老健　地上2階(一部地下１階) 診療所　地上1階
構造	老健　鉄骨造(一部鉄筋鉄骨造) 診療所　木造(集成材サミット工法)
延べ床面積	老健4,922m² 診療所828m²
工事費	建設工事　1,614,861千円 木材工事　49,010千円
木材利用量	老健　109.6m³ 診療所　138.9m³
うち県産材利用量	老健52.1m³ 診療所112.7m³
設計	(株)スペースデザイン
施工	(株)北村組(建設工事) 宮川森林組合・三瀬谷地区木協共同事業体(木材工事)

○ 木造を選択することとなった背景

町では、従来から公共施設等の整備にあたっては、森林・木材産業の振興のために積極的に木材を使うこととしており、「大台町公共建築物等木材利用方針」を策定して、小学校や保育園その他集会施設等の施設建設のほか、町営バス停留所などの構造物にも積極的に木材を利用しています。

こうした町全体で木材利用を促進している中で、本事業でも施設の建設にあたっては当初から木材利用を念頭に考えていました。施設規模や予算の都合などの諸条件を検討した結果、診療所は木造、介護老人保健施設は内装等を木質化することとしました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

使用する木材は、既製品や市場調達ではなく“町産材”を使うことを基本としました。また、施設整備のために伐採するのではなく、「通常、町内で生産されている木材をどのように使うか」という考え方により設計を進めてきました。

このため、町内から生産される木材はスギが中心の間伐材であるため、どちらかと言えば劣勢木と承知するとともに、木製品に見られるシミや節、色あせ、傷等は欠点ではなく木の特徴と理解して、あらかじめ施設管理者や職員にも理解を求めて整備を進めてきました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

使用した木材（製品量）は、診療所は、構造材等が約117m³、屋根下地等の合板が961m²、腰壁等の仕上げ材（板材）が684m²。老健は、腰壁、床、天井等の仕上げ材で2,821m²、木製受水槽で11m³です。

以上の設計上の数量を基に木材を調達した上で、診療所と老健ごとに、居室等の使用環境を踏まえて使用木材を割り当てていきました。

納品される製品の状態を見ながら、診療所に白みのきれいな材をまとめ、その他の赤みの材や節材を老健の仕上げ材として色合いや節の割り合いを考えながらバランス良く施工することとしました。また、板材の仕上げ面が広くなる箇所は、縦・横方向の組み換えや、クロスとのブロック貼りなど、間取りごとに飽きのない仕上げ方を考えながら施工しました。

診療所は明るい雰囲気に、老健は木の雰囲気が出て落ち着いた施設になりました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

施設職員や利用者からは「木の雰囲気がよく出ていて良い」との感想が寄せられており、木材を使用していること自体への問題は全く挙がっておりません。

当初、施設の規模や性質から、衛生上その他管理上の理由で相当の指摘や問題提起を予想していましたが、このような大規模施設についても、多くの方々から木材利用に好感を持っていただけることが分りました。

今後、こうした木材利用の事例やその調達、施工方法を広く紹介しながら、木材利用が特別なことではなく、使えるもの（木）を使う感覚で自然と求められる仕組みが築かれることを期待します。

グループホームきれい 御糸の杜

施設名	グループホームきれい 御糸の杜	延べ床面積	261.0m²
所在地	多気郡明和町大字行部字西浦131	工事費	71,640千円
発注者	社会福祉法人 伊勢亀鈴会	木材利用量	34.5m³
工期	着手　平成26年9月5日	うち県産材利用量	19.1m³
	完成　平成27年2月20日	設計	藤川設計
規模	地上1階	施工	(株)丸亀産業
構造	木造合金メッキ鋼板ぶき		

○ 木造を選択することとなった背景

入居者全員が「家族」として共通の「夢」に向かって力強く毎日の生活に立ち向かうアットホームな施設を目指しました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

ホームで過ごす利用者にとって、今始まる未来がきっと楽しいものであり、また、お互いの生活を思いやり、固有の空間を尊重し共有の時間を大切にしながら一年の四季を感じられ、優しい時間が流れるようなホームを目指しました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で 工夫した点

居間や廊下など利用者の目に付く場所や集まる場所に木の温もりを出すことで、自然の光と調合しリラックスした気分でくつろげるように配慮しました。

地域密着型特別養護老人ホーム たきの里

施設名	地域密着型特別養護老人ホーム たきの里
所在地	多気郡多気町笠木1338
発注者	社会福祉法人 笠木御所桜会
工期	着手　平成26年6月30日 完成　平成27年3月31日
規模	地上1階
構造	木造 丸太組構法(角ログ)及び軸組工法、 準耐火構造
延べ床面積	1,146.7m²
工事費	343,440千円
木材利用量	370.3m³
うち県産材利用量	370.3m³
設計	(株)ARTS
施工	(株)平野組

○ 木造を選択することとなった背景

建築地である多気町の笠木地区は自然が残る地域であり、果樹園と山林に囲まれた建築地であることから、その風景に合うように木造を選択しました。

また、既存の施設が二棟あり一方は鉄骨、もう一方は木造なので、色々な比較をして木造の良さを周知しており、新施設も木造で建てることを選択しました。

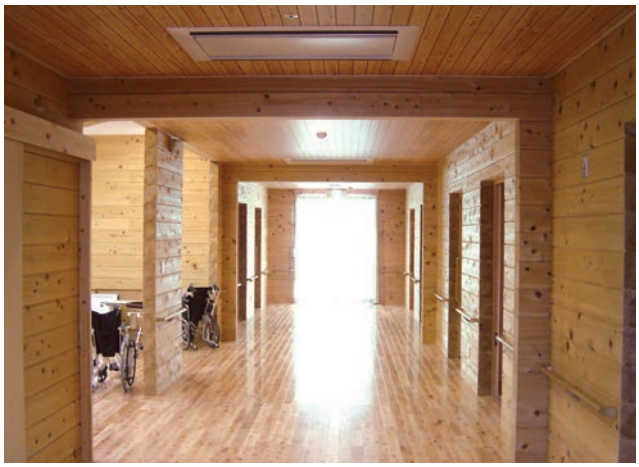
○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

計画地の状況から、プラン上工夫をすれば平屋で建築することが可能との事で平屋とし、玄関部分から放射状に三ユニットの居住空間を設ける事としました。そのことにより、それぞれの場所で採光、通風の確保が出来、また外観にも変化が出来て興味が湧く建物となりました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で 工夫した点

建物は丸太組構法を居住棟に採用し、共用部分に軸組工法を採用した混構造としました。また、入居者が出来る限り木に囲まれた生活が出来るように配慮しました。

なお、丸太組構法部分には三重県産のヒノキを使用し、また、そのほかの部分も三重県産のヒノキ、スギを使用しました。その結果、県産材の使用量が370m^{3}となりました。丸太組構法の特徴として、建築後も表面に木材があらわれる部分が多いので、木造建築の良さをＰＲ出来ると思います。



医療法人 イワサ小児科

施設名	医療法人 イワサ小児科	延べ床面積	299.9m²
所在地	松阪市下村町527	工事費	108,469千円
発注者	医療法人 イワサ小児科	木材利用量	79.5m³
工期	着手　平成26年6月16日	うち県産材利用量	79.5m³
	完成　平成27年3月5日	設計	(株)館設計事務所
規模	地上2階	施工	(株)オオコーチ
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

子どもたちが病院を受診するにあたり、ゆったりとした気持ちで診察を受けられる空間を目指しました。そのためには、ぬくもりのある木造建築が一番と考え、県産材のヒノキをできる限りたくさん使用しました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

「地域の皆様に信頼され、温かみのある医院」を基本コンセプトにしました。子どもも親も安心できる医院として、病児を診る一般診察側を、健診・予防接種側の入口から完全分離しました。それぞれに入口・待合を持たせた間取りが特徴的で、木造で優しい空間としました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で 工夫した点

ヒノキの柱や梁を現しとして見せて、床もヒノキの無垢板を使用しました。また、窓枠、ドア枠やガラリにいたるまでヒノキを使用、さらに待合椅子の足まわり、おむつ台、診察ベッドの足などもヒノキの特注で制作することで、トータルコーディネートされたヒノキの白木が明るい空間を演出しました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、 実際に施設を使用している方の評判

子どもたちが自然と素足でヒノキのフロアを心地よさそうに歩いて、温かみのある空間で診察を待っているように感じます。保護者からは、「木の温かみと匂いが非常に良い」と言われており、概ね好評であると感じています。スタッフも木の明るさと良い香りに癒される毎日です。

明和町立みょうじょうこども園

施設名	明和町立みょうじょうこども園	延べ床面積	2,094.1m²
所在地	多気郡明和町大字明星1060	工事費	691,837千円
発注者	明和町	木材利用量	345.7m³
工期	着手　平成26年3月10日	うち県産材利用量	328.3m³
	完成　平成26年12月26日	設計	(株)アスカ総合設計
規模	地上１階	施工	(株)伊藤工務店
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

自然に囲まれた山のふもとに、自然環境を十分に活かした園舎を建設するため、三重県産木材を多く活用し、ぬくもりが感じられ、子どもたちが元気に学び、遊び、育っていってくれる木造の「こども園」としました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

地域周辺環境を把握し、光・風・四季の気候を十分に取り入れ、自然エネルギーを利活用した自然豊かな園舎を目指し計画しました。また、構造材・仕上げ材だけでなく、備品なども含め地域材を多く活用した設計にしました。園舎の形状は園庭を中心部に設置し、園庭を囲むように園舎を建設することで、死角が少なく見通しのよい、外部からの防犯性も高めた設計となっています。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で 工夫した点

内装材の使用として保育室等床にフローリング、壁に杉小巾板を用いました。また、基本的に地元材及び県産材を使用しています。使用する材は、早い時期から調達したうえ製材加工を行い、できる限り長い乾燥期間を確保して含水率を下げるように配慮しました。（一部中温乾燥処理材もあり）

また、比較的安価な「あかね材」込みの構造材（柱、梁桁等）と、製作金物ではなく極力市販品の構造金物利用等で建設費のローコスト化を図りました。さらに、内外装の木材使用部には、着色保護材（自然塗料）を施し、木材の耐久性、耐汚性を高めました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

みょうじょうこども園は、平成27年4月にスタートしました。幼稚園部59名、保育所部109名、計168名の幼保連携型認定こども園で、明星地区の高台にあり、山の木々に囲まれた自然豊かな園です。

園舎は、三重県の木材でできており、木は体温にすぐ馴染むので、優しい体温のような中で、どの子も、穏やかでゆったりとした表情です。木の机、椅子のランチルームや床暖房の整った木の床の午睡ルームなど、木をふんだんに使っている環境は、子どもたちの生活をより豊かにやさしく包み込み、一人一人が健やかに成長しています。

藤認定こども園

施設名	藤認定こども園(保育園)	延べ床面積	488.7m²
所在地	津市豊が丘2-58-7	工事費	設計費　9,504千円
発注者	学校法人 藤学園		工事費　153,895千円
工期	着手　平成26年9月4日	木材利用量	90.2m³
	完成　平成27年3月20日	うち県産材利用量	42.6m³
規模	地上１階	設計	(株)ARTS
構造	木造	施工	(株)平野組

○ 木造を選択することとなった背景

本園の教育・保育方針に掲げる「強いからだで元気に遊べる子」を目標に、病気に負けないたくましい身体と機敏な子どもたちを育てたいので、木材のぬくもり、やさしさを取り入れることとしました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

大きな屋根がつくるおおらかな風景と、あたたかでダイナミックな木造の大空間、最新の設備による自然エネルギーの利用によって、「豊ヶ丘の自然を生かした空間」をつくりました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

大空間を純粋に木材のみで構成するためには、複雑で重たい構造物を組み上げなくてはなりません。そこで、木材の軽くて強い性質を認め、足りない性質は鉄材で補った張弦トラス梁による単純な方法で大空間を実現しました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

木の床の柔らかであたたかみのある肌触りは、家族のあたたかさ、保育園のあたたかさとともに子どもたちの記憶に強く残ってくれると考えました。木造の大空間とともに幼い子どもたちが過ごすにふさわしい空間となったと思います。

また、扉には子どもたちが手を詰めないような工夫がされており、先生も安心しています。また、保護者の皆さまからも、明るい室内空間と木のぬくもり、やさしさなど好評です。

菰野町立鵜川原幼稚園・保育園

施設名	菰野町立鵜川原幼稚園・保育園（増築）
所在地	三重郡菰野町大字大強原829-1
発注者	菰野町
工期	着手　平成26年6月5日
	完成　平成27年3月27日
規模	地上１階
構造	鉄骨造平屋建
延べ床面積	653.8m²
工事費	186,755千円（建築）
	44,925千円（電気）
	40,543千円（機械）
木材利用量	13.9m³
うち県産材利用量	13.6m³
設計	（株）長工
施工	生川建設（株）（建築）
	三重電設（株）（電気）
	北勢電気（株）（機械）

○ 木造を選択することとなった背景

既存の園舎に乳児棟を増築する改築工事であったために、本体工事は鉄骨造です。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

建物構造上、内装材すべてに木質化を図ることはできませんでしたが、内装に木材を取り入れることによって調湿性にも優れ、夏は涼しく冬は暖かい、そして園児たちにも優しく癒される室内空間を構築するため可能な限りの木質化を図りました。同時に、三重県産材を利用することで地元林業の活性化を図ることも意図しました。

また、園児たちの目線が届く床及び腰板壁面には三重県産材を積極的に利用するとともに、自然木の良さが実感できるよう節目も自然のままで残し、目に見える自然教材として活用できるようにしました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で 工夫した点

三重県産材の木材利用量は13.9m³で、床材に9.1m³、壁面材に4.8m³と僅かな利用でありましたので、特別な工法、工夫等はありませんが、乳児が生活する空間として、木材のささくれ、反り、割れ等を防ぎ、怪我の原因とならないようウレタン塗料の塗装等に配慮しました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、 実際に施設を使用している方の評判

増築棟園舎に入ると、鉄骨造の外観とは全く異なる趣を醸し出す木材の香りやそのあたたかさは、職員、園児とも癒しの空間となり好評です。そしてヒノキの自然な色合は、見た目にも優しく、他の内装材である合板やクロスとも色調を合わせ易く、柔らかな雰囲気を醸し出す室内空間が構築できました。

のべの幼稚園

施設名	のべの幼稚園(内装の木質化)	延べ床面積	863.2m²
所在地	津市久居二ノ町1855	工事費	40,194千円
発注者	学校法人 野辺野学園	木材利用量	24.4m³
工期	着手　平成26年7月9日	うち県産材利用量	24.4m³
	完成　平成26年10月25日	設計	(株)アルテー級建築士事務所
規模	地上２階	施工	(株)宇戸平工務店
構造	鉄筋コンクリート造		

○ 木造を選択することとなった背景

「のべの幼稚園」は、鉄筋コンクリート造ですが、園内の改装工事を計画するにあたり、子どもたちにとって、優しく温かで、心地よい教室環境になるよう考え、県内産ヒノキ材を活用した内装の木質化を、平成26年度に実施することにしました。

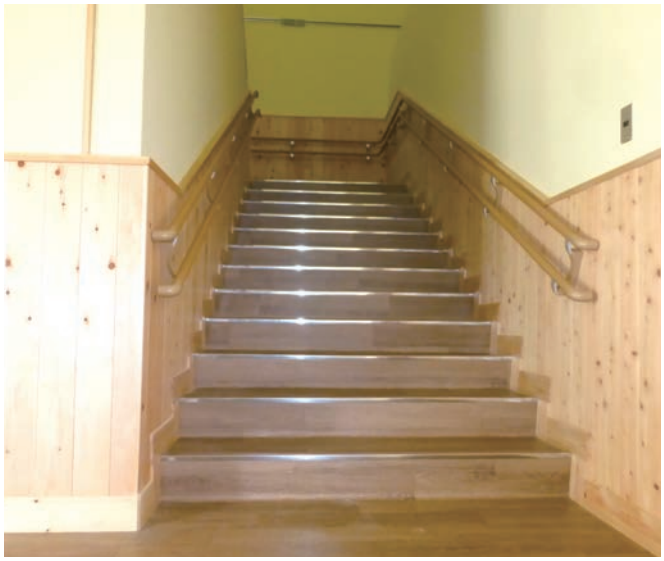
○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

使用木材は県内産ヒノキの無垢材にこだわり、コンクリート造の建物に温かみと優しさをもたせた快適な教育空間を目指しました。また、教室と時間外保育棟では、天井のデザインを変えてみるなどして、用途により環境の違いを楽しめるようにしています。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

壁、天井などの内装材として、ヒノキを14.9m^{3}使用しています。教室では、歌や楽器の練習も行いますので、防音対策や室内の照明を効果的に使用するため、各教室内の天井部は全て木材とせずに約７割を吸音ボード施工としました。

なお、職員室及び時間外保育棟は天井まで全て木材を使用し環境を変えています。内装材の仕上げは、表面保護の自然塗料（無色）のみに止めて、子どもたちが手触りで木の温もりや、やさしさ、香りを五感で感じることができます。



○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

まず、室内の環境が大きく変わりました。防音と断熱効果が一段と上がり、一年を通じて室内の環境が良くなっています。このことから、アレルギーやインフルエンザの発症率も低下しています。また子どもたちの落ち着き度が上がり、集中力も高まりました。さらに保護者の方々からも、「教室全体が明るい」、「自然のぬくもりがある」、「ヒノキの香りで落ち着く感じがする」など木質化の評価は高く、好評をいただいています。

第二はなこま保育園

施設名	第二はなこま保育園(増築)	延べ床面積	472.4m²(増築部分) 2,295.1m²(施設全体)
所在地	津市高茶屋小森上野町字野田778	工事費	149,040千円
発注者	社会福祉法人 洗心福祉会	木材利用量	102.5m³
工期	着手　平成26年8月28日 完成　平成27年2月28日	うち県産材利用量	26.6m³
規模	地上1階	設計	(株)安井建築設計事務所
構造	木造	施工	ナカノフドー建設

○ 木造を選択することとなった背景

当法人では、木のぬくもりに包まれた保育空間の実現を目的とし、これまで三重県内において木造保育園の整備を行ってきました。木造空間の柔らかさ、温かさは保育の環境にふさわしいと考えており、今回も従来方針どおり木造を選択しました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

増築部分を既存園舎（木造）のデザインに合わせることにより、施設全体の統一感を持たせ、既存と増築との間にはシンボルツリーのある中庭を設けました。内部も木材を多用した素材のぬくもりを感じられる空間としています。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

保育室や一時保育室の独立柱には磨き丸太を使用し、空間の象徴的な要素となっています。外壁下見板、フローリング床、腰壁、テラス床材など、子どもの手に触れる内外装材には木材をふんだんに採用しています。

木材使用にあたっては、柱の角に怪我防止のための面取りを施し、テラス床板の取付間隔は指詰めに留意した寸法とするなど、子どもの安全性に配慮しています。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

木材は「生きた」素材であるため、経年による収縮が課題であり、背割れの埋木、隙間にはシール材の充填等、収縮が落ち着くまできめ細かく経過を見守っていく必要性があります。

子どもたちは、木のぬくもりの中で寝転んだり、丸太柱を触ったりして、気持の良い木の肌触りを楽しんでいます。保護者の方からも、木が多く使われていることで心地よい温かみのある和みの空間となっていると評価をいただいています。

南伊勢町立さくら保育園

施設名	南伊勢町立さくら保育園	延べ床面積	725.9m²
所在地	度会郡南伊勢町小方竈20	工事費	256,903千円
発注者	南伊勢町	木材利用量	167.2m³
工期	着手　平成26年6月19日	うち県産材利用量	167.2m³
	完成　平成27年3月20日	設計	(有)ピース設計
規模	地上１階	施工	(株)上村組
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

「木」は利用する人間にとって優しく癒される素材であることから、新保育園のコンセプトである「ぬくもりとやさしさ」を実現するために、木造を選択しました。あわせて地場産材の活用、木の柔らかさ・温かみ・香りによる人への好影響、ストレスの緩和、集中力の向上、風邪や怪我の抑制効果などを狙いとしています。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

県産材・町産材を活用し「ぬくもりと優しさ」をコンセプトとした純木造建築施設で、幼児期の子どもたちを明るく、あたたかく見守りながら、生きる力の基礎をはぐくむ施設として建設しました。施設そのものが保育を変えることはありませんが、施設を活かした新しい保育に保育士たちが楽しみながらチャレンジすることによって、子どもたちも変わることを期待しています。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

木材利用量約168m³のすべてが県産材で、一部町産材も利用しています。純木造施設であることから、訪れる人はすべて「いい香りがする」と笑顔になります。

また、平屋建ての施設の中央部分には、ひときわ高い塔のような赤い屋根を持つ遊戯室があり、赤い屋根が周辺の山々の緑に映えて印象的でありながら、周りの風景にうまく溶け込んでいるのも木造建築のおかげであると感じています。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

保護者さんたちからは「やさしい雰囲気がいい」、「玄関を入ったところから木の香りがしていい」、「すべて木なのでぬくもり感がある」、「子どもたちが嬉しそうにしている」というような声を聞き、とても嬉しく思っています。

熊野市立入鹿保育所

施設名	熊野市立入鹿保育所	延べ床面積	162.0m²
所在地	熊野市紀和町大栗須１	工事費	68,580千円
発注者	熊野市	木材利用量	40.0m³
工期	着手　平成26年7月17日	うち県産材利用量	40.0m³
	完成　平成27年1月30日	設計	木下設計事務所
規模	地上１階	施工	(株)榎本工務店
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

熊野市は木の産地であるため、木造にすることで地元産業の活性化を図るとともに、木のぬくもりを子どもたちに伝えたいと思い木造を選択しました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

地元のスギやヒノキを多く使い、耐震性やバリアフリー性、シックハウス問題を考慮するとともに、テラスなど実際に木に触れられる場所を造りました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

登所してくる子どもたちの玄関、テラスには、木の表面が多くみられ木の温もりが伝わり、元気な挨拶が聞こえている毎日です。

自然の明るい日差しが、「みんなの部屋」と名付けた二つの保育室に入り、子どもたちは、それらの部屋を自由に行ったり来たりして好きな遊びを楽しんでいます。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

軸組や下地材などに木材を使用しました。また、テラスや渡り廊下など木造を感じさせる場所や実際に木に触れられる場所も多くあります。

伊賀市立阿山小学校

施設名	伊賀市立阿山小学校	延べ床面積	3,502m²
所在地	伊賀市馬場字馬場崎1045	工事費	954,156千円
発注者	伊賀市	木材利用量	64.4m³
工期	着手　平成26年2月10日	うち県産材利用量	52.0m³
	完成　平成27年3月4日	設計	(株)白鳳アドバンス
規模	地上3階	施工	山一･乾特定建設工事共同企業体(建築)
構造	鉄筋コンクリート造		(株)トーエネック(電気)
			名阪設備工業(株)(機械)

○ 木造を選択することとなった背景

子どもたちが安心・快適・健康に過ごせる優しい学校づくりとする考えを基に設計しました。木材を身近な位置に利用することで、校内にある市指定文化財「せんだんの木」に親しみを感じる学校としました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

部屋ごとに天井の形や色などに特徴のあるデザインとし、躯体はゆるぎない安心を確保するため堅牢な作りとし、内装は木を中心に温もりのある空間づくりとしました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

普通教室等の腰壁にはスギ、床にはヒノキ、共に三重県産を使用したほか、建具の額縁やOAフロアの床材も木としたことで、児童の行き交う教室全体にほのかな木の香りが安心と温かみを演出します。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

金額に制限のある事業の中、受注後の建設単価の高騰や厳しい条件の中でも品質の良い木の選定に苦慮しました。また、工期の厳しい中でのフローリングの施工は、床シート材にくらべ手間がかかり、仕上がりの完成が遅れました。

しかし、職員や訪問者から校舎のどこにいても木の感覚を味わえ、経年により味わいのある木となることも楽しみと好評を頂いています。

尾鷲市立宮之上小学校

施設名	尾鷲市立宮之上小学校
所在地	尾鷲市宮ノ上町6-48
発注者	尾鷲市
工期	着手　平成25年7月29日
	完成　平成26年12月16日
規模	地上2階
構造	鉄骨造
	校舎　鉄骨造2階建
	屋内運動場　鉄骨造平屋建
延べ床面積	2,523m²
	校舎延床面積 2,038m²
	屋内運動場延床面積 485m²
工事費	700,081千円
木材利用量	39.5m³
うち県産材利用量	39.5m³
設計	(株)アスカ総合設計
施工	北村･丸昇特定建設工事共同企業体
	(株)北村組
	(株)丸昇建設

○ 木造を選択することとなった背景

校舎の耐震化改築に伴い、尾鷲で生まれ育った子どもたちに「尾鷲ヒノキ」の持つ良さを感じとってもらうため、地域の特色ある学校として地域の森林資源である木をふんだんに活用した、ぬくもりの感じられる校舎としました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

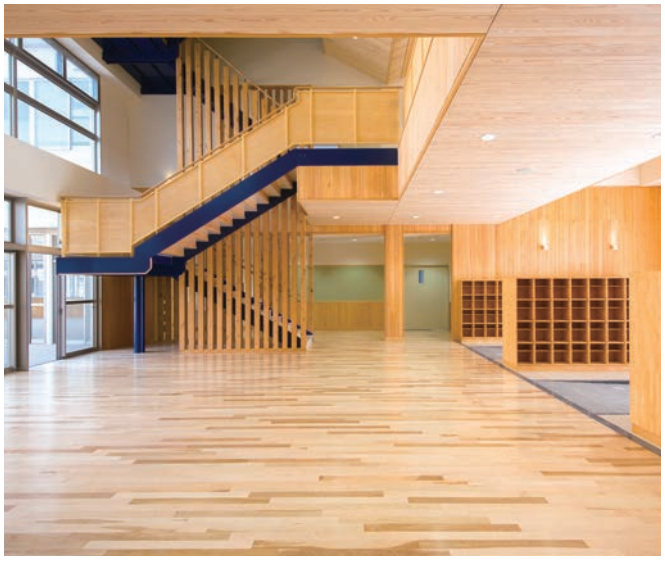
本校舎は浸水区域内に位置することから構造は鉄骨造りとしており、津波・地震対策や災害時の緊急避難場所としても対応できる機能を十分に考慮したものとしています。

また、校舎の内装については、生徒が直接触れたりする教室・廊下・階段等に地域資源である木材を利用しました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

生徒たちに「木の大切さ」を伝えていく取り組みも必要であることから、教室内の床・机・椅子には全て木材を使用しています。

また、階段や廊下の一部に木材を22.7m^{3}使用し、学校生活において生徒たちが木に直接触れることができるよう工夫しました。



○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

本校舎は、教室内の壁、床などに尾鷲ヒノキを使用しており、各先生からも安心安全な空間を創出した校舎であると評価していただいています。子どもたちの感想も「木のぬくもりがあって気持ちいい」、「木の香りで落ち着く」など、視覚・触覚・嗅覚で木の良さが感じられる良好な学習環境を創り出す校舎となっています。

使用していて気になる点としては、木は金属等と比較して「キズがつきやすかったり、汚れたりする」ことがあげられますが、逆に、子どもたちが丁寧に使用することによって「物を大切にする心」が育まれると思います。

三重県立杉の子特別支援学校石薬師分校 作業実習棟

施設名	三重県立杉の子特別支援学校 石薬師分校 作業実習棟(ゆうあい棟)	延べ床面積	885.8m²
		工事費	295,063千円
所在地	鈴鹿市石薬師町字寺東452	木材利用量	319.1m³
発注者	三重県教育委員会事務局 (三重県県土整備部営繕課に執行委任)	うち県産材利用量	315.4m³
		設計	(株)前野建築設計
工期	着手　平成25年9月26日 完成　平成26年7月22日	施工	イケダアクト(株)(建築) 扇立電気(株)(電気) 北勢電気(株)(機械)
規模	地上2階		
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律の規定に基づき、三重県では「みえ公共建築物等木材利用方針」を策定しています。この方針に沿って、本校舎を木造とし、内装等の木質化に努め、可能な限り県産木材を使用しました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

特別支援学校という用途を考え、安全で使いやすい、温かみ・親しみのある校舎を目指しました。

また、『校舎＝箱物』というイメージを払拭するよう、学校敷地前の桜並木を活かしながら、低層の２階建てとし、木造校舎らしい景観となるよう心がけました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

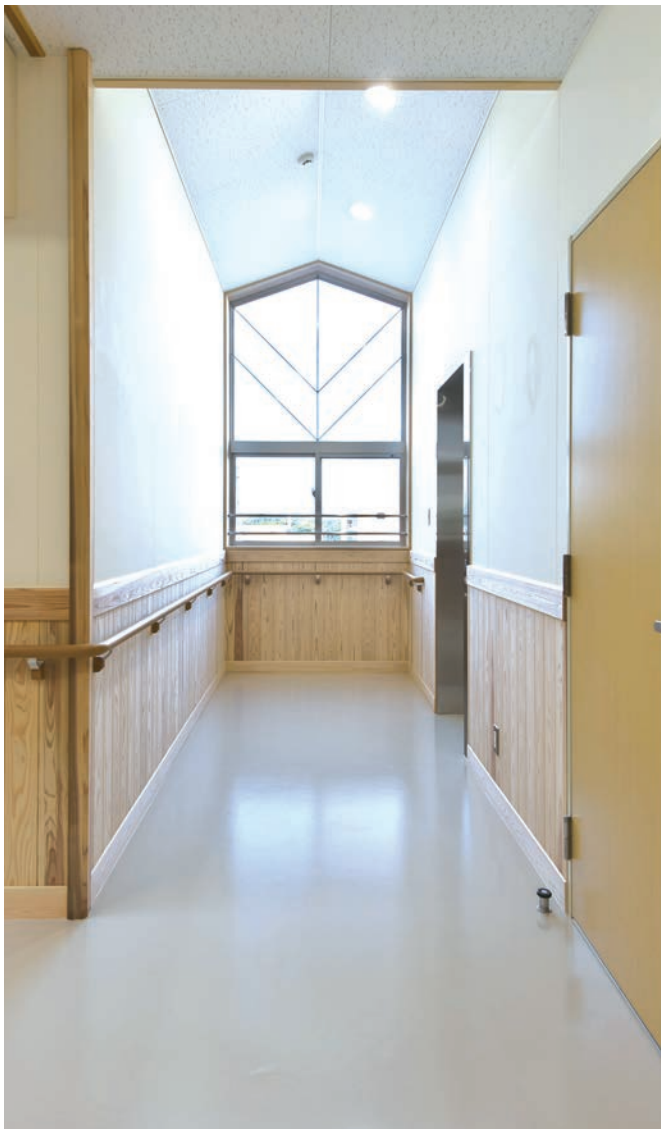
管柱、胴縁、根太等にはスギ、梁や土台にはヒノキを採用しました。内装においては、各室の腰壁にスギを用い、多目的ホールの床を天然木圧密フローリングとし、木質化に努めました。

また、構造面と意匠面のすり合わせを綿密に行い、バットレス（控壁、スギ板使用）を多数導入し、ラチス梁（ヒノキ使用）を採用することで、教室や多目的ホールで無柱空間を実現しながら、在来軸組工法としての壁量を面材で十分に確保しました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

木の香りや木の質感が持つ温かみは、生徒に癒し効果を与え、教室等は憩いの空間となっています。

乾燥により内装材がささくれてきた箇所もあり、メンテナンス面では、他の材質より丁寧な対応が必要と感じています。



神辺地区コミュニティセンター

施設名	神辺地区コミュニティセンター	延べ床面積	268.7m²
所在地	亀山市太岡寺町1259-1	工事費	95,706千円
発注者	亀山市	木材利用量	51.7m³
工期	着手　平成26年2月19日	うち県産材利用量	49.2m³
	完成　平成26年10月31日	設計	(株)阿波設計事務所 三重支店
規模	地上１階		
構造	木造	施工	(株)白川建設

○ 木造を選択することとなった背景

亀山市では、平成23年4月から「市内に整備される公共建築物における木材利用を促進するための施策に関する基本的事項」、「市が整備する公共建築物における木材利用の目標を定めた亀山市公共建築物等木材利用方針」の運用を開始し、木造公共施設の整備を進めています。また、亀山市加太地区では、豊かな自然に恵まれ林業が盛んであることから、神辺地区コミュニティセンターでは加太の山から切り出された亀山市産材の木材を積極的に活用しました。

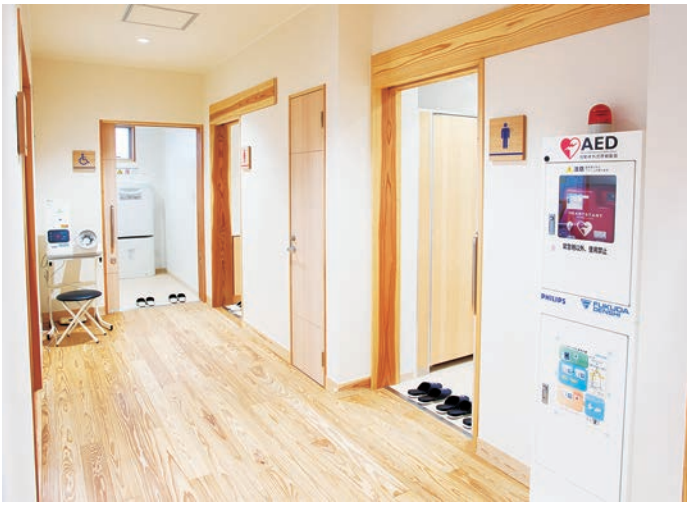
○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

木材は、施設全体で51.7m³を使用し、木のぬくもりを感じることができるように玄関ホール、和室、集会室では、木質感を全面に出しています。

また、集会室の天井部に使用されているアーチ状の木材は、センターの開放的な集会室を象徴するものです。

○ 施設を設計するに当たってのコンセプトやデザイン上の工夫等

神辺地区コミュニティセンターは、“つどい・ふれあい・憩い・にぎわう”をコンセプトに、東海道太岡寺畷の歴史街道が通り、神辺地区の公共施設（神辺小学校・神辺保育園）が集まる、地域の新しい活動拠点施設をイメージして建設しました。



○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

木造施設を利用する方からは、木の良い香りがして気分が良い等の好意的な意見が寄せられています。管理する側からは、施設の壁面に木材を利用することで歪みが発生するなど、メンテナンス面での課題もありますが、木のぬくもりを感じられる施設として大切に管理しています。

九鬼コミュニティーセンター

施設名	九鬼コミュニティーセンター	延べ床面積	257.5m²
所在地	尾鷲市九鬼町255	工事費	91,929千円
発注者	尾鷲市	木材利用量	52.4m³
工期	着手　平成26年9月24日	うち県産材利用量	34.6m³
	完成　平成27年3月22日	設計	武藤建築設計企画
規模	地上1階	施工	(株)中村組
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

尾鷲市の地場産業である林業の活性化を図るため、地元産のヒノキを中心に使用することで、木の香りに包まれ心が癒される空間として、多くの住民が普段から利用しやすいようにしました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

構造材に木材を利用することはもちろんですが、癒しの空間を提供するため、人の目に触れるところには極力地元材を使用し、住民が心地良く落ち着いて利用できるようにしました。

○ 施設を設計するに当たってのコンセプトやデザイン上の工夫等

明るく開けた場所に新築される独立した建物ですが、出来るだけ昔ながらの九鬼地区の港町のイメージを壊さないように、シンプルで周囲の環境に溶け込むような建物を意識して設計しました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

バリアフリー化により高齢者から子どもたちまでが直接木に触れることができ、また、天井部分で大きな梁を見せることで視覚的にも木材を身近に感じることができます。部屋全体が木の香りに包まれており、落ち着いて会合等ができると地域住民の評判も上々です。

障害者支援多機能型事業所 紀北作業所

施設名	障害者支援多機能型事業所 紀北作業所(増築)	延べ床面積	新棟　940.0m²
所在地	北牟婁郡紀北町海山区上里275-20		改修既設棟　486.4m²
発注者	紀北広域連合	工事費	267,446千円
工期	着手　平成26年6月22日	木材利用量	新棟　140m³
	完成　平成27年3月20日		改修既設棟 26m³
規模	地上2階	うち県産材利用量	新棟　140m³
構造	新棟　木造2階建て		改修既設棟 26m³
	(一部鉄筋コンクリート造平屋建て)	設計	岩清水建築設計事務所
	改修既設棟　鉄骨造平屋建て	施工	東建興業(株)

○ 木造を選択することとなった背景

今回の増改修工事においては、紀北町公共建築物等木材利用方針に定められている事項である構造や規模、耐火性能等の安全性などを検討しました。

その結果、木造で建設されることが充分可能な施設であり、また、木造の方が施設の利用者にやさしい建物となるため木造を採用しました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

既存の施設は鉄骨造の準耐火建築物、今回の増築部分については木造建築であり、構造が異なることから別棟となるよう配置しながらも、両施設が一体的に利用できるように計画しました。

木造の建物であること、また木の良さを出すために積極的に真壁仕上げを採用し、仕上げにおいても木材仕上げの部分を多用しました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で 工夫した点

構造部材の土台や柱については、5寸角のヒノキを使用し、耐久性や強度を確保しました。架構材はスギの4寸巾の材とし、梁せい300mm以下は無垢材、300mm以上は集成材を利用するなど、調達のしやすさやコスト削減も考慮しながら木材の使用に努めました。

作業室や面積の大きな部屋が多く、高い天井が必要でしたが、木の柱については3.0mの長さが一般的であるため、2階の利用しやすさを考慮しながら、3.0mの柱で必要な天井高を確保できるように階高を抑えることに努めました。

また、上下階の配置位置については、耐力壁の配置を揃えて金物等の使用を軽減しました。

紀勢自動車道地域振興施設「始神テラス」

施設名	紀勢自動車道地域振興施設(始神テラス)	延べ床面積	997.4m²
所在地	北牟婁郡紀北町紀伊長島区三浦600番地	工事費	329,847千円
発注者	紀北町	木材利用量	214.0m³
工期	着手　平成26年8月8日	うち県産材利用量	214.0m³
	完成　平成27年3月20日	設計	(株)東畑建築事務所
規模	地上2階	施工	(株)平野組
構造	木造一部鉄骨造		

○ 木造を選択することとなった背景

紀北町を代表する木材「尾鷲ヒノキ」を使用して建築することで、「尾鷲ヒノキ」の香りを含めた木造建築の素晴らしさを多くの来訪者にPRすることにより、木材利用の普及・拡大に努めるとともに、町の基幹産業である林業の活性化を図ることを目的としています。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

この施設は南海トラフ地震等の大規模災害時の災害復旧拠点施設として利用されますが、平時には特産品や食の販売、観光情報等を発信し、地域振興を図るための施設としても活用されます。このため、建物のデザインは紀北町の雄大な自然や変化に富んだ地形をダイナミックに表現するような設計としました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

施設本体棟は木造2階建で、全体に地域産材の「尾鷲ヒノキ」を使用し、大黒柱等にはFSC認証材を用いています。

また、建物だけではなく、物販コーナー及び飲食コーナーの棚、テーブル、イスなどの備品についても地域産材を使用しています。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

紀勢自動車道紀北PA内に平成27年6月28日にオープンしました。来訪者の方には、「ひのきの香りがすごくいい」、「木造なので暖かさを感じる」などの高い評価を得ています。

「地域産材の供給」面から見ると、大規模建築になるほど「短期間に材料を調達することが困難になる」といった課題があります。この解決には、余裕のある納期や材料の分離発注といった対応が必要になります。

また、仕様として特一等材が指定されていたとしても、材料が太くなるにつれてより高価な化粧材料用原木を使用せざるを得ず、価格面での要求を満たせないといった課題が見受けられます。

プレカット技術が進んだことにより、近年の木造建築物では複雑なデザインが可能となりましたので、その対応として、「地元の加工技術のレベルアップ」と「地元で加工ができるデザインでの発注」等が課題です。

湯ノ口温泉施設

施設名	湯ノ口温泉施設	延べ床面積	617.0m²
所在地	熊野市紀和町湯ノ口79	工事費	353,160千円
発注者	熊野市	木材利用量	234.8m³
工期	着手　平成26年3月13日	うち県産材利用量	234.8m³
	完成　平成27年3月10日	設計	(株)前田建築設計事務所
規模	地上１階	施工	(株)川上組
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

「建設地は山々に囲まれた場所であり、周囲の景観になじむ建物とする」、「木造で人気の高い旧建物のイメージを継承する」、「誰もがリラックスできる自然の中の癒しの空間とする」等、施設全体の魅力を高めるため木造としました。

また、多くの方が利用する施設であり、木造にすることにより木材の温かみや癒し効果等木材の良さを感じていただくことができ、林業の活性化につながるのではないかと考えました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

これまでも効能が顕著とされる源泉かけ流しが人気であったが、温泉だけでなく施設本体の魅力を高め、「毎日行きたい温泉」をコンセプトに設計をしました。

外観は和瓦のシンプルで美しい屋根、板張りの外壁で周囲の景観になじませ、玄関ホールは地元産のスギ板のフローリングでリラックスできる空間を作りました。また、浴場棟は、地元材による木組みの迫力、素材の力をシンプルに見せ、露天風呂は丸太組の屋根を掛け自然の中の温泉を体感できる構造としました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

山間部にある湯治場のイメージにピッタリな木造らしさを強調するために構造材を外部にも露出させ、自然にとけ込んだ外観としました。内装では温泉施設の特性上素肌に触れる部分に気を遣い、素足で歩く床に温かみを感じるスギ無垢材のフローリングを使用した他、壁天井にも大胆に見せた大断面の構造材とスギ無垢材の仕上がりにより、落ち着いた雰囲気と木の香りが漂う癒しの効果が出せるよう工夫しました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

本施設は断面の大きな木材を数多く使用しているため、工事施工時には木材の調達に苦労しました。木材の乾燥等を考えると、大規模な木造を建築する場合、発注者が木材を事前に用意をしておくか、工事工期を木材調達・乾燥を踏まえた工期設定にするなどの対応が必要と感じました。

お客様からの評判として、「外観は神社風の造りで趣があり、施設に入った瞬間、熊野材の造作の大きさ、太さに魅せられ圧倒される」、「ロビーの開放的な作りと心地よい木の香りに心を癒される」などのお声をいただいております。

上野忍町武家屋敷

施設名	上野忍町武家屋敷 登録有形文化財『赤井家住宅』	延べ床面積	320.6m²
工事費	86,000千円		
所在地	伊賀市上野忍町2491-1	木材利用量	29.1m³
発注者	伊賀市	うち県産材利用量	14.3m³
工期	着手　平成25年9月24日 完成　平成26年9月25日	設計	(株)白鳳建築設計事務所
施工	(株)西建(建築) (有)柘植電気工業所(電気) (株)名阪設備工業(機械)		
規模	地上1階		
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

既存木造建物の保存改修工事であり木造以外に選択肢はありませんでしたが、間取り等を改変する部分の内装にも登録文化財としての風格を損ねず、来訪者が親しみやすい施設を目指して積極的に木材を利用しました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

既存建物が持つ歴史性や文化性を尊重しつつ、今後様々な用途に利用していただけるようにしました。また、子どもやお年寄りもほっと和めるようなスペースを木の質感により体現しようとしました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

樹種や等級などについては、できるだけ既存建物で使われていたものを引き継ぐようにしました。また、できあがりの見た目や質感を重視し、木材を活用しました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

大幅に改変した管理棟についても他の建物と遜色のない見た目とするため、木製窓等を採用しましたが、既製品ではないので作成期間に時間を要しました。

また、利用者には木の温かみや伝統的な木造建築の良さが感じられる施設であるとお褒めの言葉を頂いています。

深田スポーツ交流センター

施設名	深田スポーツ交流センター	延べ床面積	251.5m²
所在地	南牟婁郡紀宝町大里24-12	工事費	49,070千円
発注者	紀宝町	木材利用量	47.0m³
工期	着手　平成26年7月	うち県産材利用量	45.7m³
	完成　平成27年1月	設計	(株)建築工房くまの
規模	地上１階	施工	(株)ナンセイ
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

山や森など大自然に囲まれた環境に位置し、周囲の豊かな自然と調和し、木の温もりや優しさを多くの子どもたちに感じてもらえる施設を目指して木造を選択しました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

壁・柱など人の手に触れる箇所等、木をふんだんに使用することで、木が持つ肌触りの良さや、木の香りを感じることができる、温もり溢れる施設となるよう工夫しました。

○ 施設を設計するに当たってのコンセプトやデザイン上の工夫等

たくさんの木材を使用するだけでなく、窓を高い位置に取り付けて採光に工夫を凝らし、夏でもクーラーが不要になるほどの風通しの良さを実現しました。

また、隣接するグランドで行われているスポーツを観戦できるよう、木造のバルコニーを設置しています。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

来場者からは、「木の温もりと広々とした空間で、子どもたちが過ごしやすい」、「安心して子どもを遊ばせることができる」などの感想をいただいています。町外からも多くの子どもたちが遊びに来てくれており、子どもたちの笑顔が溢れる施設となっています。

五郷防災センター

施設名	五郷防災センター	延べ床面積	72.0m²
所在地	熊野市五郷町桃崎516-2	工事費	18,031千円
発注者	熊野市	木材利用量	14.0m³
工期	着手　平成25年12月24日	うち県産材利用量	14.0m³
	完成　平成26年5月30日	設計	熊野市役所 建設課
規模	地上1階	施工	山本建材店
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

当地域は、山林に囲まれており、かつては林業がさかんな地域であったが、過疎化・高齢化による後継者不足などもあり年々衰退をしている状況です。そのような中で、地元の木材を利用した施設を建築し、イベントや会議、寄り合いに使用していただき、木材の素晴らしさを再認識していただくことで、地元産業の活性化を図ることを目指して建築しました。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

防災センターと聞くと、一見、固い施設のイメージがあることから、「地域の皆様に、身近に感じてもらう施設にすること」をコンセプトにしました。

デザインに関しては、外観を住宅風とし、屋根の形を切妻とすることで、シンプルにまとめることにしました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

防災センターには、車庫としての機能もあるため、内装については、不燃材のものを使用しています。そのため、木材を壁の仕上げ材としては用いていません。しかし、構造を木造の在来工法とすることで、できる限り木材を使用するようにしました。

また、当地域の防災の特徴として、大雨による浸水対策の重要性が高く、雨合羽をきたままで当施設を使用することも想定されるため、通気性に優れている木材を使用しました。

斎宮池地区地域用水環境整備事業トイレ

施設名	斎宮池地区地域用水環境整備事業トイレ	延べ床面積	45.1m²
所在地	多気郡明和町大字池村字生州1650-5	工事費	34,689千円
発注者	三重県農林水産部	木材利用量	11.3m³
工期	着手　平成26年10月10日	うち県産材利用量	8.4m³
	完成　平成27年2月6日	設計	山本和彦建築設計事務所
規模	地上１階	施工	青木産業(株)
構造	木造		

○ 木造を選択することとなった背景

斎宮池に隣接しており、山や森に囲まれた屋外トイレであるため、周囲の豊かな自然と調和し、利用者に気持ち良く使用していただくことを考え、木造を選択しました。

また、積極的に木材を使用することで地元林業が活性化することも目的としています。

○ 施設を設計するに当たっての コンセプトやデザイン上の工夫等

駐車場に隣接していることから、目隠しとしてトイレ入り口に木製のルーバーを設置し、プライバシーに配慮した設計としました。庇の柱やルーバーに木材を使用したり、屋根の勾配を道路勾配と合わせることで、周辺環境との一体感を出し、公園内での落ち着いた施設を意識してデザインしました。

○ 木材の使用箇所や木材を使用する上で工夫した点

洗面台の鏡の枠を木材にすることで柔らかな印象を与え、壁面と一体化することで、すっきりとした収まりになりました。内部は、壁から天井まで木材を使用することで木の優しさを感じられる雰囲気にしています。

また、トップライトから差す光が内壁の木材に反射することで内部に柔らかな光が入るように工夫しました。

○ 施設を整備するに当たって生じた課題、実際に施設を使用している方の評判

外観において正面以外の面から木造であることが分かりづらいため、もう少し木材での仕上げを外観に加えても良かったかなと思います。

紀勢自動車道地域振興施設「始神テラス」使用備品

備品名	紀勢自動車道地域振興施設「始神テラス」使用備品	工事費	8,591千円 (うち交付金　8,591千円)
所在地	北牟婁郡紀北町紀伊長島区三浦600番地	木材利用量	飲食コーナー　3.4m³ 物販コーナー　4.5m³
発注者	紀北町	うち県産材利用量	飲食コーナー　3.4m³ 物販コーナー　4.5m³
工期	飲食コーナー 着手　平成27年1月29日 完成　平成27年3月30日 物販コーナー　着手 平成27年2月13日 完成 平成27年3月30日	設計	紀北町役場 建設課
		施工	森林組合おわせ

○ 木製の備品を選択することとなった背景

地域産材をふんだんに使用した地域振興施設（始神テラス）にふさわしい備品として、来訪者が直接触れる机や椅子等も地域産ヒノキを用いて製作することにしました。多くの来訪者に、ヒノキの香りが漂う安らぎのある空間を提供し、木のぬくもりに触れてもらいたいとの考えから、「みえ森と緑の県民税」を活用して備品の整備を行いました。

○ 備品の特徴

使用されている木材は全て地域産ヒノキで、地域の森林組合や製材業・木材加工業が、それぞれ連携しながら材料の調達から製作まで行いました。ヒノキの質感を活かした地域色豊かな備品となっています。施設内はヒノキの薫る空間が実現し、木のぬくもりを体感できます。

○ 備品の感想・課題

ヒノキの香りがする地域振興施設建物の雰囲気とも相まって、来訪者の方からも「木の暖かさを感じる」、「とても落ち着く」などの高い評価を得ています。

木材利用面での課題としては、家具類の曲面加工や木材硬度を高める加工等に関して、地元で対応しきれないといったことがあげられます。

農水産物直売所「鳥羽マルシェ」使用備品

備品名	農水産物直売所「鳥羽マルシェ」使用備品	工事費	2,975千円 (うち交付金　2,975千円)
所在地	鳥羽市鳥羽1-2383-4	木材利用量	2.0m³
発注者	鳥羽市	うち県産材利用量	2.0m³
工期	着手　平成26年8月22日 完成　平成26年9月30日	設計	鳥羽市役所 農水商工課
		施工	いせしま森林組合

○ 木製の備品を選択することとなった背景

当市では、市域面積の約70%を森林が占めており、緑豊かな森林資源に恵まれています。森林整備を通じて、海洋環境の改善を目的とした「森と海・きずな事業」を推進しており、訪れた方々に森林整備の重要性や木の持つ魅力を発信できないかと考え、木材を使用しました。

○ 備品の感想・課題

三重県産ヒノキを使用したことから来場者からは、「木の優しい空間とヒノキの香りがほのかに漂い落ち着く」といった声をいただいています。また、設置状況を広く知っていただくために、ケーブルテレビや広報とば等に掲載し利用を促しています。

課題として、屋外の沿岸部に設置しましたので、防腐材の加圧注入や保護塗装を施工しましたが、耐用年数に不安が残ります。

○ 備品の特徴

年間412万人もの観光客が訪れる当市の玄関口である鳥羽駅に隣接する鳥羽マルシェは、農水産業などの第一次産業の振興と農漁村の活性化を図るために整備を行いました。

三重県産ヒノキを使用した木製テーブル・木製ベンチは風光明媚な鳥羽湾を一望できる場所に設置し、訪れた方に安らぎのある香りと空間を演出することができました。

また、車いすなどを使用されている方でも利用しやすいようテーブル高に注意するとともに、付添者が寄り添えるようにベンチも分割式を採用しました。

森林の有する多面的機能を発揮させ、林業の持続的かつ健全な発展を図るためには、県産材の使用を増やし、森林を循環的に利用していくことが重要です。

このため三重県では、平成22年12月に「みえ公共建築物等木材利用方針」を策定し、公共建築物等の木造・木質化を積極的に推進しています。

公共建築物は木材の利用拡大を図る余地が大きく、また多くの県民に対して木と触れ合い、木の良さを実感する機会を提供することができます。

さらに、木材は断熱性、調湿性に優れ、紫外線を吸収する効果や衝撃を緩和する効果が高いなどの特徴があるため、学校などの公共建築物の木造化・木質化は多くの人に心地よい感覚をもたらします。

三重県では、公共建築物等の木造化・木質化を推進するなど積極的に地域で生産された木材を利用することで、「木を植える→収穫する→また植える」といった「緑の循環」を守り、地域の環境保全に繋がる取組を進めています。

〒514-8570　三重県津市広明町13番地
三重県農林水産部　森林・林業経営課
TEL：059-224-2565　FAX：059-224-2070

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。